



俺は海が好きだ

Fishery Conservation Zone



米倉 宏さん
留萌漁業協同組合青年部長



羽幌から来たニシンの稚魚を船に積み込みイケスへと運ぶ

漁協青年部の活動は捕るばかりの漁業ではなく、「つくり育てる漁業」を目指している。現在は栽培漁業に目を向けクロガシラカレイ人工授精放流、マガレイの標識放流、ミズダコの標識放流、マツカワの中間育成放流、ギンナン藻増殖試験、ニシンやクロソイの増大事業など、水産資源の増大に向けみんなと一緒に頑張っている。今後は親水性レクリエーションを交えた水産資源の有効利用を考えていきたい。

この頃は釣が流行して魚より人間の数の方が多くなっちゃった。俺たちが栽培漁業で一所懸命魚を増やしても、釣られていく魚も多し、海に捨てられた釣り糸がコンブを切ってしまったたり、海洋資源に悪影響を与えている。釣り人たちにも俺たちのやっている海の森づくりを理解してもらいたい。たとえば、小さな魚を釣ったときは魚を海に帰したり、一定の入漁料を支払って釣を楽しんでもらうなんて方法も良いと思うよ。

毎年、黄金岬には大勢の人が訪れる。普通海水浴と言えば砂浜に行くと思うが、わざわざ黄金岬のような危険な岩場に来るといふことは、岩場にいる生物を見たり、触ったりしたいからだと思う。ところが、少しでも海の中へ足を入れて遊んでいると「密漁」と思われて怒られてしまう。これではせっかく留萌に遊びに来て印象を悪くして帰ってしまう。だから、いくらかの入漁料を支払ってもらい、決められた量の水産物を持ち帰ってもらう方法をとることによって漁業者と海水浴客とのトラブルも解消できると思う。しかし、毎年密漁者は後を立たない。海遊びの人と見分けが付かない場合もある。困ったもんだよ。もちろん海は漁業者だけのものではない。みんな海を大切にしたい。



子どもたちのために海を守る

Fishery Conservation Zone



祐川 玉岬さん
留萌漁業協同組合婦人部長



港の清掃を終えた浜の母さんたち

昭和25年に留萌の漁師の家に嫁いできた。その翌年からニシンが大豊漁になった。浜は活気付きニシン一色に留萌の町は染まっていたねえ。そんなときはみんなに「玉ちゃんにニシンを連れてきたんだね。」と言ってほめてくれたもんだ。

婦人部のみんなと始めました。最初は2、3人しかいなくて大変だったけど、今は多くの仲間と一緒に木を植えたり、港のごみを拾ったりして、海の資源を守るために頑張っています。

三泊の住人は絶対にごみは捨てないし、捨てさせない。そして、必ず持ち帰る。気構えが違うね。だから、この三泊の港は管内で一番きれいだと自慢してるよ。一度見においで。

昭和25年に留萌の漁師の家に嫁いできた。その翌年からニシンが大豊漁になった。浜は活気付きニシン一色に留萌の町は染まっていたねえ。そんなときはみんなに「玉ちゃんにニシンを連れてきたんだね。」と言ってほめてくれたもんだ。

朝早く網をあげる手を休め、海を守るために一所懸命手伝ってくださいます。本当にありがたいよ。浜の母さんたちには感謝してます。全国の漁師たちが海を守るために木を植えている。私たちも黙って見てられないよ。婦人部のみんなも憩いの森や、チバベリ、峠下まで行って木を植えています。地元を離れた子供や孫たちのために植樹をするのさ。

でもね、釣り人には参ったね。何回ごみを拾っても散らかして帰るんだよ。ひどい奴になると、魚やタコを盗んで行く奴もいる。漁船の油を抜いて行く奴もいる。こっちはウニの作業で朝3時から夜7時まで浜で頑張っているのに頭にくるね。とにかく、これからも海の森づくりを命ある限りみんなと一緒にしていこう。

浜の母さんたち



浜の父さんたち